



# 虹の架け橋

平成31年1月18日  
印西市立西の原小学校  
校長室便り No. 18

## 凡事徹底

### ～当たり前前のごとを当たり前前～

先日、教頭が打ち合わせで職員に1冊の本を紹介しました。「凡事徹底」(著・井芹 貴志)です。抜粋して紹介します。

この本は、熊本県の代表校として全国高校サッカーに毎年のように出場する大津高校の監督と選手たちの実践をまとめたものです。大津高校と言えば、先日引退を発表したJリーグの巻誠一郎選手を始め、50名以上のJリーガーを輩出しています。しかし、大津高校は小さな町のごく普通の公立高校であり、監督はJリーガー経験者でもなく、県費負担の教職員です。それがなぜ・・・？

大津高校サッカー部で大切にしていることは、「しっかりと挨拶をする」「授業はどんなに疲れていてもしっかりと受ける、居眠りやさぼりは絶対に許さない」「部室や身の回りを常に綺麗にする」「スポーツマンとして服装髪型は常に心がける」等です。以上のことが徹底できない者はどんなに技術がすぐれていても練習・試合出場の停止や退部とするのだそうです。それを徹底して行きます。平岡先生が着任した当時の大津高校のサッカー部員は授業に出ない、授業中寝ているのは当たり前、挨拶もできないこと等が常態化しており、学校内でも「指導しても無駄です。」と言われるくらいの状態だったそうです。そういう生徒達を情熱をもって指導していくことで低迷したサッカー部を立て直していったそうです。

新しく入った1年生には、「目と耳を鍛える。そして理解すること」をまず、指導するそうです。耳で話をしっかり聴き、目で物事をしっかり見る能力を身につけることがサッカーをやることでも一番大切で、それができない選手は伸びることはできないと語ります。その一番のトレーニングは授業。しっかり受けることが大切で、居眠りをしているようではその能力は伸びないと言い切ります。今ではサッカー部の生徒だけでなく他の部活動や部活動にはいってない生徒にも広がり、全国大会にでる部活動が出てきて、国公立大学等への進学率や企業・社会にも求められる人材が育ってきているそうです。



教頭は、この本を読んでいるうちに本校の重点や力を入れていこうとしていることが思い浮かんだそうです。「授業の基本は話を聞かせること」「しっかりと授業が受けられる環境を整えること」「正しい努力が継続できるような習慣を付けること」等です。そして子どもたちにも伝えたいこととも重なりました。「目と耳を鍛えて理解すること」「挨拶をきちんとすることはコミュニケーションの入り口」「ルールを守ることの大切さ」「日々の正しい生活習慣」等です。

九州の小さな町の公立高校から  
Jリーガーが生まれ続ける理由

# 凡事徹底

1日は有限、  
使い方は無限

24時間をデザインする  
熊本県立大津高校サッカー部の  
練習時間は1日100分

名将・平岡和徳の  
チームマネジメントと人づくりに  
迫る!

井芹貴志 著

教頭の言う通り、本校では①話の聞き方 ②挨拶 ③ルールの確立 ④努力の継続等 全職員で共通理解、共通指導をしてきました。しかし、徹底が不十分だったために、なかなか指導の成果が上がらないこともありました。3学期残り2か月、今向き合っている学級の子どもたちに、今まで力を入れて指導してきたことが成果として現れるようにもう一度全職員で共通理解しました。

## ご協力を宜しくお願いいたします。

高校生と小学生の大きな違いは、小学生には保護者の皆様の細かなご協力が必要だということです。小学生は、話の内容をしっかりと理解して、自分の意志で自分を律していくには、まだまだ知識や理解、経験が不足しています。また、それらのことができる環境を整えることにも大人の手が必要な場合が多々あります。

学校では、凡事徹底・・・当たり前のことを当たり前にすることができるように指導を徹底していきます。どうぞご家庭でも、話の聞き方、挨拶、ルールを守る、努力を継続する等、指導のご協力をお願いいたします。

## 授業参観、ありがとうございました。



17日、授業を参観して頂きありがとうございました。頑張っていたところは大いにほめてあげてください。ご心配なことがあれば遠慮なく担任にご相談ください。残り2か月でよりよいまとめができるように、学校と家庭で連携していきたいと思ひます。



